

江別市行政審議会 「第 1 部会」からの主なご意見

《本体素案に関する内容》

黒字：第 5 回審議会
青字：第 6 回審議会

■ まちづくり政策について

- ◎ 政策 08 の「協働」の政策をもう少しクローズアップできないか。実際の政策がどのように実行されていくかを検討いただきたい。
- ◎ 産学官連携という意味での大学との連携については記載があるが、地域課題の解決といった側面のまちづくりにおいて、大学と連携するということについての記載も「まちづくり政策」の中で謳うことを検討いただきたい。

■ まちづくり政策について

- ◎ 18 ページの「1 協働のまちづくりの推進」の「(3) コミュニティ活動への支援と相互連携」と「(4) 市民活動団体の支援と相互連携」のタイトルの「支援」を「推進」に置き換えて、(3) は「コミュニティ活動の推進と相互連携」、(4) は「市民活動の推進と相互連携」にしてはどうか。
- ◎ 第 5 回部会でご意見のあった大学連携に関する記載については、「(5) 大学との連携によるまちづくりの推進」として記述されているので、このままでよい。
- ◎ 35 ページに「支援」という言葉がたくさん使われているが、これらをどうするかは押谷部会長と事務局に一任する。ここは分野別の政策であり、市の政策を謳った部分のため、「支援」でも良いかもしれないが、できるだけ言葉の使い方は統一しておくべき。

《別冊・えべつ未来戦略に関する内容》

■ 戦略 1 について

- ◎ 戦略 1 A ①「協働によるまちづくり」の主な内容欄の中に、「高齢者をはじめ、多世代の協働による」というような表現を入れて、高齢者の生きがいにもつながるような要素を盛り込み、高齢者が地域課題の解決に関わっていくことを明確にすることを検討いただきたい。
- ◎ 1 A - 1 の指標の「協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合」について、「協働によるまちづくり」とは何かということを、市民が実際にわかるかどうかを踏まえた上で目標の設定を検討いただきたい。
- ◎ 戦略 1 B ①の主な内容欄の記述について、「支援することで」といった表現など、行政目線が強い記述の仕方になっているので、工夫していただきたい。

■ 戦略 1 について

- ◎ 5 ページの 1 A の内容の 1 行目「市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体」は横の組織や団体の繋がりのことであるので、その後に「や様々な世代」を追加することで、縦の世代間の繋がりも含めた文脈にしてはどうか。
- ◎ 65 歳から 75 歳までの間の、現役を退いた経験や知識の豊かな人たちに活躍してもら

いたいと思っている。そういった人たちのことは「高齢者」とは言えないと思うので、そういう意味で「高齢者」ではなく、別な言葉が使えないか。「それぞれの豊かな経験を活かし」というような表現を追加すると、生涯学習だけに目を向けるのではなくて、自分たちのこれまでの経験や知識を地域づくりに活かしてもらうということに繋がる。1 Aの1行目の文章を「多様な主体や様々な世代がそれぞれの経験を活かし、協働するための」と変更してはどうか。事務局で全体的な文章の流れを確認した上で修正をお願いしたい。

- ◎ 推進プログラム①から③の「主な内容・特徴」欄にも「多様な主体」という言葉があるので、すべて同様に「多様な主体や様々な世代」と修正する。14ページの「(1) まちづくりの基本理念」や8ページの「(6) 市民協働」の中にも同様の文言があるので、修正する。他にも同様の表現がないか確認の上で事務局と調整させていただく。
- ◎ 3ページの戦略の方向性の中で、協働が不可欠だがあまり進んでいないということが記載されているので、そのことについての現状のデータが必要ではないか。現在の協働が進んでいない状況の基本となるデータを把握しておかないと、後日ある程度協働が進んだ状況のデータと比較ができない。
- ◎ 「協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合」ではなくて、協働の理解度が向上しているかどうかを市民アンケートで取得すると良いのではないか。この協働の戦略の大前提となる協働の概念が、市民に浸透しているかどうかで、この戦略の進捗状況が測れると考える。
- ◎ えべつ未来戦略で使っている「協働のまちづくり」という言葉についても、説明が必要である。江別市自治基本条例があり、その延長線上にこの協働の戦略があるので、そのことをきちんと明確にわかりやすく市民に説明できる用語を使っていたきたい。
- ◎ 構成として、最初に用語の解説がくるべきではないか。用語の定義がきちんとされていれば、自ずと戦略の中身も理解していただける。
- ◎ 1 B①は「交流するための活動を支援することで、地域の課題解決をめざします」となっているが、「支援」だと上から目線というか、主体がどこかにあってそれを支援するという形になってしまい、「支える」というイメージにもなるので、「促進する」というような表現の方が良いのではないか。「支援」という言葉を削除して、「大学の研究機能を活用するとともに、大学と地域の交流を促進し、地域の課題解決をめざします」とし、①のプログラム名称からも「支援」を削除して「大学の得意分野を活かした地域の活性化」としてはどうか。戦略1については「協働」がテーマとなっているので、行政が支援するというのではなく、様々な主体が相互に関与すべきであるという意味で、「支援」という言葉はできるだけ避けることにしたい。
- ◎ 「支援」といっても様々な支援の仕方があり、「促進」にしても市が主体となった方法もあれば、市民が主体となった方法もあるので、用語の解説をもっと丁寧にしていただきたい。
- ◎ 1 B②のタイトルも「知的資源である大学が持つ力を活かした教育・人材育成」として、「支援」を削除する。
- ◎ 戦略2から戦略4にはタイトルに「えべつ」と入っているが、戦略1だけ「えべつ」が入っていないので、「ともにつくる協働のえべつのまちづくり」としてはどうか。

■ 戦略2について

- ◎ 戦略2 Aと2 Bが、タイトルだけを見るとかなり類似しており、内容を詳しく知らずに市民の方が見たときに類似したものと感じるのではないかと懸念される。
- ◎ 戦略2 A④について、環境ビジネスの創出という視点を入れて、戦略2 A④の大学・研究機関との共同研究という部分に関連付けられないかを検討いただきたい。

■ 戦略4について

- ◎ 戦略4のシティプロモートについて、推進プログラムで「生活情報の発信」、「観光・産業情報の発信」、「まちづくり情報の発信」となっており、様々な情報を全体的に発信していくというやり方のようなのであるが、シティプロモートのしやすさの観点から、メインとなる対象を定めるなど戦略性を持った推進を検討いただきたい。

■ 戦略4について

- ◎ 江別市として、どこを一番大切に情報発信するのか、第一に情報発信すべき項目は何なのかという戦略を組み立てるのがシティプロモートである。何をプロモートしていくか、まだ明確にできないのであれば、今後それを検討していくということでも良いが、今江別市として一番進めたい政策をどう発信していくかをこの戦略で明確に打ち出すことが必要ではないか。政策的に重要度の高い情報を優先的に発信すべきで、これからはえべつ未来戦略が重要度の高い政策になるのであれば、これをもとに、どこを優先して情報発信するのか検討するというのが、戦略4の中に記載されるべきである。えべつ未来戦略の戦略1から戦略3をもとに経営戦略を立てて、江別を売り込んでいくというシティプロモートの形だということを、しっかりとこの戦略4に書き込んではどうか。
- ◎ 17ページの「めざす姿」の表現についても、戦略1から戦略3に基づいてシティプロモートをしていくということを強調することになるので、ここでは江別の特産品などについてはあまり触れない方が良いのではないかと。表現を事務局で検討していただきたい。

江別市行政審議会 「第２部会」からの主なご意見

《本体素案に関する内容》

■ まちづくり政策について

- ◎ 政策０２－０３（２）「江別ブランドの確立」について、江別の場合は観光と物産が非常に密接に繋がっているため、観光よりむしろ「物産」の方が連携しやすい。今後の観光の広がりを担保する上でも、「物産」という言葉をどこかに入れておくことを検討いただきたい。
- ◎ 政策０２「産業」について、「えべつ未来戦略」だけでなく、「まちづくり政策」でも、今までのような生産は生産、加工は加工、流通は流通と分かれている状態にあるものを、この総合計画を機会に、１つの商品を通じてお互いに連携を図っていくという共通認識を持って進めることができるようになることが、一番大切である。市民や関係者が、総合計画を読んだときに、そのように認識できるような表現になるよう努められたい。

■ その他

- ◎ 経済基盤の部分について、江別が石狩管内で下位にある現状をグラフなどの視覚的な表現にするとわかりやすくても良いかもしれない。また、文章通り読むと、江別の産業は大変深刻な状況なのではないかと受け取られてしまうので、人口あたりの産業規模が小さいという現状分析の記載の部分と戦略２の産業活性化に取り組んでいくという記載の間で少し文章を工夫して、まだ伸び代があるということを表示するとともに、江別市の性質を踏まえた補足説明を検討いただきたい。

■ まちづくり政策について

- ◎ 農業だけではなく、他の産業と連携しながら江別の農産物の価値を高めていくべきであるので、０２－０１「都市型農業の推進」の「（２）農畜産物の高付加価値化」の文章の中に「産業間連携により」という言葉を追加して、「江別特有の銘柄として売り込むために、産業間連携により江別産農畜産物の」としてはどうか。
- ◎ 「（２）農畜産物の高付加価値化」の文章の中に「他品種」という表現があるが、「他産地」ではないか。
- ◎ ０２－０３「観光による産業の振興」で、「（２）江別ブランドの確立」と「（３）観光・イベント情報の発信」の順番に関して、（３）が先にあって、その次に（２）という順番の方が自然ではないか。
- ◎ ０２－０３「観光による産業の振興」での「江別ブランドの確立」は、江別産品の情報発信をして、観光と結び付けて江別ブランドを確立するという内容だと思うが、現状の表現だと、観光とどのように関係しているのかわからない。たとえば「イメージアップを図り、」の後を「物産と観光を融合した江別ブランドの確立」というような表現にしてみたらどうか。「観光」という言葉を追記して、江別産品と観光を結びつけたブランドの確立という意味合いを明確にしていきたい。
- ◎ 政策０７「生涯学習・文化」の０７－０２「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」の

「（２）文化・歴史遺産の保存と継承」の内容で、「市民に知ってもらう取組を工夫し」とあるが、まさにその市民に知ってもらうための取組が一番重要な部分であることから、（２）のタイトルを「市民に知ってもらう」ということを強調したタイトルにできないか。

《別冊・えべつ未来戦略に関する内容》

■ 戦略２について

- ◎ 戦略プロジェクト２Ａの③「地域に根差した商店街の魅力づくりへの支援」の内容欄は、「学生が地域住民と交流し」となっているが、学生に限定せずに、定年退職したばかりの元気な方が持っている技術や趣味を活用したり、次の世代に伝えていったりできるような、元気な高齢者の方が商店街等で活躍できる場をつくっていくということを検討いただきたい。
- ◎ 戦略プロジェクト２Ｃの②「潜在労働力の掘り起こし」の主な内容欄から想定される取組として、たとえば子育てを終えた女性が働ける場や、元気な高齢者が活躍できる場をつくることを検討いただきたい。

■ 戦略２について

- ◎ 江別で産業の活性化に取り組むときに、生産行為にばかり焦点を当てるのではなく、生産行為を通じて江別の中に新たなコミュニティが生まれる、人と人との新たな関わりが出来上がってくるという側面にも同時に焦点を当てなければ、長期的な視点で考えて、将来にわたって継続していかない。最初から結果を見ながら、その結果のために取り組むのではなくて、ある程度目標を持つが、その目標に行きつくまでの産業同士の関わりやお互いの理解を深めていくことが一番大事である。
- ◎ 戦略プロジェクト２Ａと２Ｂについて、戦略プロジェクトや推進プログラムの内容の文章を修正することで、２Ａと２Ｂの区別をもう少し明確にしてはどうか。２Ａの説明の１行目と、推進プログラム①の「主な内容・特徴」欄に「農商工連携」という言葉があるが、「農商工連携」はまさに２Ｂのことであるので、たとえば「企業間連携」といった言葉に変えてはどうか。また、２Ｂの説明の文章の１行目の「農業と２次産業・３次産業との連携により」を「農業が２次産業・３次産業と連携することにより」とすることで、２Ｂが農業に焦点を当てた戦略だということを明確にしてはどうか。
- ◎ ２Ａも２Ｂも概念的なタイトルになってしまっているが、内容を読めば誰にでも理解してもらえると思うので、計画が市民の目に触れた段階で、それをどう具体化していくのかという過程が問われてくる。
- ◎ ２Ｂ①の「主な内容・特徴」欄の３行目が「食関連産業の企業誘致を推進します」となっており、これだと市外の企業を新たに江別に誘致するというだけになってしまう。既存の市内企業に対しても積極的に支援をしていくということであれば、「食関連産業の育成と企業誘致を推進します」というような記述の方が適切ではないか。
- ◎ 環境ビジネスの創出という視点を戦略２に入れた方が良いのではないか。２Ａ④の「主な内容・特徴」欄の３行目「高付加価値化・新製品開発・ブランド化等」となっている部分に、環境ビジネスも含めた「新ビジネスの創出」という括りで、「高付加価値化・新製

品開発・ブランド化・新ビジネスの創出等」と表現してはどうか。第1部会からの意見を尊重するのであれば、「高付加価値化・新製品開発・ブランド化・環境ビジネスの創出等」とすることも考えられる。または、2C①に環境そのものをビジネスにしている企業に対する支援や立地しやすくなる環境整備というような内容を追加することも考えられる。

環境ビジネスに関しては、何らかの形で2A④か2C①のどちらかに入れていただきたい。担当部局と相談の上、環境ビジネスという要素を盛り込むかどうかも含めて検討いただきたい。

- ◎ 学生と連携しながら商品開発をするといった部分で市内企業と協力出来れば、江別の地場産品を活かすことができ、学生との連携を産業につなげていけるので、2A④で「新製品開発・ブランド化」のあとに「新ビジネスの創出」を追加してはどうか。
- ◎ 素案本体の23ページの産業の政策では、「中小企業の経営の充実」ということがきちんと謳われているが、江別市は中小企業の集まりで出来上がっているまちであるので、えべつ未来戦略にも、中小企業についてフォーカスするような一文を入れていただきたい。2A②「マーケティングの視点に基づいた産業振興」というのは、江別市内の中小企業を対象にした項目であるので、「主な内容・特徴」欄で、「市内の中小企業が、市内だけではなく」とし、主体として記述することで、中小企業に対する支援であるということをより明確にしてはどうか。担当部局としては、中小企業に限定せずもう少し幅広く表現したいという意図かもしれないため、担当部局に確認の上、調整をお願いしたい。
- ◎ 2C②の「主な内容・特徴」欄の「働きたい人」は、子育てを終えた女性や子育て中の女性、あるいは高齢者といった方々を想定しているとのことだが、その他に江別の場合は若者という要素もある。市内の4つの大学を卒業した学生に、江別に住んで江別で働いてもらうということを考えると、「働きたい人」を具体的に「若者、女性、高齢者」と記載してはどうか。そうすると中年男性だけ抜けてしまうことになるが、それらを明確に記載できないか担当部局と調整の上、検討願いたい。
- ◎ 江別のようなまちでの観光とはどういうものなのか、江別ならではの観光のあり方をこれから見つけていくのだという決意表明のような一文があると良い。物産もそうだが、ウォーキングのようなイベントなども江別流の観光と捉えることができるのではないかと。2D②の「観光資源のパッケージ化」の部分が、そういったことを表現しているので、たとえば2D②の「主な内容・特徴」欄の「顧客の目的やニーズに合った様々な地域資源を組み合わせた、観光資源のパッケージ化」の部分に、「江別ならではの」という文言を追加して「顧客の目的やニーズに合った様々な地域資源を組み合わせた、江別ならではの観光資源のパッケージ化」としてはどうか。

■ 戦略4について

- ◎ 戦略4のシティプロモートの「達成度を測る指標」の設定は、難しいのではないかと懸念されるため、アンケート調査の手法等について検討いただきたい。

■ 戦略4について

- ◎ 4A③は「市民や企業が主体となるまちづくり情報の発信の支援」というタイトルだが、

「主な内容・特徴」欄の「企業間連携による新商品開発、付加価値化に向けた取組を支援します」の部分は、2 A①「市内企業等が主体となったネットワーク構築の支援」の中に入るべきではないか。4 A③は「まちづくり情報発信」であるので、社会貢献的な活動を行っている企業の情報などを行政が発信するという内容にした方が、まとまりが良い。そのまちづくり情報の中には、地場産品を活用した商品化ということも含まれるのかもしれないので、担当部局と内容について検討いただきたい。もしその内容を敢えて戦略4に盛り込むのであれば、4 A②の「江別市に来てもらうための観光・産業情報の発信」の中に盛り込んで、4 A③の「主な内容・特徴」欄を「まちづくりへの積極的な市民参画や企業の参画を促す情報発信に取り組む」という内容に修正した方が、まとまりが良い。4 A③のプログラムの名称と「主な内容・特徴」欄の記載の整合性をとれるように文章を修正してはどうかということ部会の意見とする。

《その他》

- ◎ 産業の分野に限らず、江別市全体で連携の場やお互いの共通理解を深められる場があまりにも少ないのではないかと。色々な素晴らしい発想を持っている方がいて、市内に4つも大学がある中で、これまでは必要なときにだけ声をかけるというような関わり方だったが、定期的に集まれるような様々な会議体が存在しても良いのではないかと。

江別市行政審議会 「第3部会」からの主なご意見

《本体素案に関する内容》

■ まちづくり政策について

- ◎ 進行管理にあたっては、1年の中で随時チェックとアクションを行ってもらいたい。
- ◎ 16ページの「03 福祉・保健・医療」の「3 障がい者福祉の充実」に（5）として「就労への支援」を入れ、障がいのある方々が、働くことを通じて社会参加したり、自己実現したりするという内容を追加していただきたい。

関連して、26ページ「03-03 障がい者福祉の充実」のところに、同様に（5）として「就労への支援」を追加していただき、教育、福祉、労働の関係機関などとの連携の仕組みを確立して、福祉的就労への支援の充実に努めます、としていただきたい。障がいのある方が、一人ひとり指導を受け、一般企業への就労へも繋げていけるような位置付けにしていいただきたい。併せて、「日中活動への支援」についても、地域で安心して生活できる交流の場を確保し、今後もボランティアを育成して障がいのある方々が参加しやすい地域交流の仕組みを確立して支援の充実に努めます、という踏み込んだ表現にするとよいのではないかと。労働力人口が減っていると言われているので、障がい者の就労に関して、きちんと表現しておくことが必要ではないか。

もし、（5）として項目立てしないとしたら、（4）のタイトルを「日中活動・就労への支援」というような形にしていいただき、部会長と事務局とで調整していただきたい。

- ◎ 05-02「交通環境の充実」に関して、公共交通の利便性の向上は、バスの本数を増やすということではなく、バスの接続をよくすると、格段に利便性が上がる可能性がある。その辺りをもう少し踏み込んで表現していただきたい。公共交通の「再構築」は、乗り継ぎの部分など、いろいろな面でそのとおりと思うが、「活性化」は限りなく不透明だと思うので、文言を工夫していただきたい。
- ◎ 公共交通について、バス会社相互の絡みもあると思うので、役割分担など、何らかの工夫ができればよいと思う。利用の仕組みをどう「活性化」させるかであり、利用者のニーズに合わせて、駅を中心から離れたところは、スクールバスや福祉バスの空いている時間を利用することも検討してはどうか。

また、公共交通の「活性化」というと、とてもアクティブな感じを受けるので、「最適化」くらいの言葉がよいのではないかと。情報の適切な伝え方ということで、表現の工夫が必要ではないか。

《別冊・えべつ未来戦略に関する内容》

■ 戦略3について

- ◎ 「コンパクトなまちづくり」ということだけが独り歩きし、現実とかけ離れるのではないかと、あるいは「えべつ版コンパクト」のニュアンスがなかなか伝わらないのではないかと危惧する。駅周辺以外の地区のことも十分考慮するという文言が入っているが、これから10年間でこれをどう具体化していくかが重要である。この点をぜひとも担保して、こ

れからの施策展開に取り組んでいただきたい。

- ◎ 公共交通の問題について、総合計画に謳ったことが実現できる手立てを早急に検討し、計画ができると同時に大筋の対策ぐらひは打ち立てられなければ、計画書だけが独り歩きすることになってしまう。記載できるものについてはある程度「見える化」するなど、何らかの形で市の意思表示を具体的に示すよう努められたい。
- ◎ 戦略３Ａの推進プログラム①で「産み育てる」がタイトルになっているので、主な内容欄を「既存の子どもを産み育てる支援政策を」という表現にして、現在進めている子どもを産み育てるための支援策と併せて一体的に進めていく表現を検討いただきたい。

■ 戦略３について

- ◎ １３ページの「戦略の方向性」の文章の４行目に、「選ばれるまちづくりが必要です」とあるが、産み育てやすい環境の他にも、具体の取組として、学校教育の中で食や自然などの江別らしさや江別の特性についてもＰＲできればよいのではないかと。他の自治体と違う特徴を明らかにしていけないと、差別化を図れないと思うので、より積極的にアピールできるポイントを個別計画等で検討していただきたい。
- ◎ 指標の３Ａ-３の「子どもを産み育てたいと考えて転入してきた」部分で、１つの設問で決めるのではなく、複数の設問を設定して、トータルで３Ａ-３の内容を把握するとよいのではないかと。
- ◎ 転入時のアンケートを実施する時に、情報を事前にたくさん発信した上で、このようなアンケートを実施したらよいのではないかと。また、転入時のアンケートは、事前情報が効いてくる部分だと思うので、江別市に関して簡単にまとめたものが、アンケートを実施する窓口にあると、江別に関する情報の復習になってよいのではないかと。

■ 戦略４について

- ◎ 戦略４Ａから想定される取組として、「住んでもらうため」、「来てもらうため」のイメージづくりをアピールするために、江別市の自然景観、農産物、食品などの情報をコンパクトにまとめて、視覚に訴えて目を引くような新たな資料を大量に作成し、市内各団体に配布して、市民一人ひとりが広報マンになっていくというようなキャンペーンを打つようなことを実施するよう努められたい。
- ◎ 江別市のブランディング（ブランドとして認知されていないものをブランドとして構築するための活動）を総合的に一体的にやるというところが、今の江別市で欠けている状況である。江別市と企業などの間で、ＰＲのためのコンソーシアム（個人、企業、団体、行政などが、共同で何らかの目的に沿った活動を行うために結成する組織）のようなものをつくるなど、行政が主体となるのか、あるいは行政以外が主体となるのか、情報発信の主体の組み合わせを上手く考えられるような仕組みづくりについて、個別計画や事業計画につなげていくためにも、何らかの形で総合計画の中で明記していただきたい。
- ◎ 戦略プロジェクト４Ａにある「関係するまちづくり政策」の欄に「０９－０２ 透明性の高い市政の推進」とあるが、この政策の取組は、市民に対する内容だけであることから、市外の人に「住んでもらうため」、「来てもらうため」のイメージづくりというところをアピールするために、審議会で提案された取組などの意見をどのように盛り込めば良いかを検討いただきたい。

■ 戦略4について

- ◎ 情報をどのように伝えていくかという部分が重要であり、江別市がこういう市であり、こういう暮らしやすいまちであるということが分かってもらえるような対策を、計画ができた後に考えていくことが大切だと思う。個別計画との関連をきちんと位置づけることと、一般市民の方に向けた分かりやすい表現、あるいは、何かのイベントなどでパンフレットとともに5～10分間ぐらいのPRをセットで行ったらよいのではないかな。
- ◎ 個別計画以上に馴染みの薄い総合計画なので、個別計画との連動性を持たせるためにも、具体的で身近な話題などを題材に、小さな取組でもよいから何らかの工夫を、継続的にシステム化して行っていただきたい。
- ◎ プロモートする際には、政策よりも細かい施策等の部分で、こんなサービスを受けられるというような身近な話題が、一目で分かるようなパンフレット等をつくると魅力を感じられるのではないかな。
- ◎ 身近な事例を小出しにして、総合計画の戦略に位置付けられているということを周知すると、大きな総合計画がどういうふうに組み立てられているか、あるいはどのように生活と密着しているかというイメージが伝わるのではないかな。
- ◎ 転入してきた子育て世代の方に、子育て支援事業に参加した人たちの意見や取組などを書いた具体的な資料を渡すと、市外に口コミ等で伝わるのではないかな。
- ◎ 転入して来られる方は、自分の住んでいたまちとの比較で、新鮮な視点を持っているので、その視点を大事にすることで、市が求めていることを聴くことができ、また、個別計画の中にも追加できるものがあるのではないかな。できるだけ形にこだわらないで、ざっくりばらんに腰軽くいろいろなことを実施していただきたい。
- ◎ 情報発信に関して、年齢層によって情報を受け取る媒体が異なるため、ソーシャル・ネットワーキング・サービスなど、いろいろなメディアをどう活用するかを戦略的に考え、今後の江別市を支える10代～30代という若い世代にも特化した対応が必要ではないかな。
- ◎ 行政だけではなく、商工会議所や観光協会、不動産業界など、いろいろな団体が組んだ企画を市外で実施するとよいのではないかな。どの情報に人が飛びついてくるか分からないので、いろいろな情報を組みあわせて協働で実施すべきではないかな。

■ その他

- ◎ 総合計画の性質上、大枠だけを決め、個別具体的な事業計画は、これから考えていくことから、どうしても具体の部分がかぼけてしまっている。どのように取り組んでいってほしいか、あるいはどのように取り組んでいくのかという意思表示を何らかの形で答申に入れる必要がある。少なくとも、人のつながりという部分で、当事者になれる枠組みが必要であり、その枠組みをつくるべきであるという内容の記載を検討いただきたい。